

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 Tel. 0569-26-4888 <https://www.nankichi.gr.jp>



月二十二日(金)は新美南吉の八十一回目の命日でした。記念館では今年もこの日に「貝殻忌」式典を開催し、献花台を設置して、訪れた方に南吉を偲んでもらいました。

また、今回は式典の中で、一つの紙芝居を披露しました。タイトルは「いつのことだか どこのことだか」

南吉の短い無題作品を原作とした、手づくりの紙芝居です。この紙芝居は昨年一月に亡くなった、俳優・三谷昇さんの遺作の中から

新美南吉 没後 81 年

— 貝殻忌 —

- ①「貝殻」を歌うつばさ幼稚園の園児たち
- ②紙芝居「いつのことだか どこのことだか」上演 (俳優・由木凛さん)
- ③南吉作品の朗読と演奏 (出演・りん○りん)

発見されました。無題で、絵本化もされず、これまであまり知られていなかった南吉の作品が、実は四半世紀も前に紙芝居になっていたのです。そこで式典では、三谷さんと生前交流のあった俳優の由木凛さんをお招きし、この「いつのことだか どこのことだか」を上演していただきました。

物語は、野原に立つ大きな木の周りに、いろんな生業の人々が集い、やがて町になっていくというもの。どんな店ができ賑わう町の様子を、由木さんがとても楽しそうに朗読していたのが印象的でした。さらに上演後には、紙芝居が見つかった経緯や三谷さんとの思い出など、貴重な話も聞かせていただきました。

それから、地元のつばさ幼稚園の子どもたちが登場し、南吉の「貝殻」などを歌って式典は終了となりました。また「いつのことだか どこのことだか」は、式典後に、由木さんも参加するグループ「りん○りん」が図書室で再上演し、他の南吉作品と合わせて楽しむことができました。

今年三月二十日(水・祝)〜二十四日(日)にかけて「貝殻忌」イベントを開催する予定でした。ところが初日は春の嵐で、暴風警報が発令され記念館を臨時休館することになったため、翌二十一日(木)からイベントをスタートさせました。キーホルダーやキャンドルを作るワークショップを開催したほか、文学講座や朗読・演奏イベントなどを通して、南吉を偲んでもらえたのではないかと思います。

特に三月二十三日(土)に行った「貝殻笛づくり」は盛況でした。貝殻笛は、南吉の文学忌名の由来となった「貝殻」の詩に登場します。難しい手順はなく、ハマグリの貝殻をグラインダーで削って、穴を開ければ完成します。ただ、上手く鳴らすのにはコツが必要で、大人も子どもも、ガイドボランティア「南吉案内人」に指導されながら、音が出るまで一生懸命に練習していました。

また、今年も郵便・メール・SNSで南吉へのメッセージやイラストを募集し



たところ、五十件以上の応募がありました。力作ぞろいの作品と心のこもった言葉の数々、誠にありがとうございました。今年は中国からもメールで長文のメッセージが届き、驚きでした。いずれも四月初旬ごろまで記念館エントランスホールに掲示させていただきました(右写真)。

生誕祭含め、メッセージ等を募集するのはこれで八回目となります。毎回メッセージボードを埋めるほどの応募があり、作家・新美南吉の持つ力を感じずにはいられません。没後八十一年を迎えてなお、その作品は多くの方に愛されているでしょう。

南吉のセンス・オブ・ワンダー with 端午の節句

記念館では、六月三十日(日)まで、展示室にて企画展「君は即ち春を吸いこんだのだ」南吉のセンス・オブ・ワンダー」を開催しています。その内容をご紹介します。

センス・オブ・ワンダーとは、この世の神秘さや不思議さに目を見張る感性という意味です。アメリカの海洋生物学者で作家のレイチェル・カーソンの遺著のタイトルでもあります。見るもの触れるものすべてが初めての子どもたちが豊かに備えているこの感性を、大人になっても失わない人たちがいます。作家であり詩人でもある南吉もその一人です。

企画展では、南吉がいかにして五感鋭くふるさとの自然を見ていたかというところ、

とや、その感性がどのようにして育まれたか、そして南吉のセンス・オブ・ワンダーから生み出された童話や詩についてなどを紹介しています。レイチェル・カーソン没後六十年の今年、彼女が現代の私たちに遺したメッセージと、南吉作品の源泉としてのセンス・オブ・ワンダーを、ぜひご覧ください。

会場では、南吉の日記や原稿などの直筆資料をはじめ、南吉が女学校の教え子たちとつくった生徒詩集など、関連する資料を六十点以上展示しています。

*

また記念館では毎年、GWに家族連れで楽しんでもらえるよう「正八ちゃんの端午の節句」という行事を行っています。今年も企画展にあわせて開催を試みました。森の中を散策して物探しや南吉の言葉を見つけて「ネイチャーゲーム」



や、敷地内の笹で笹船や手裏剣をつくるワークショップなど、楽しく遊びつつ自然に触れられる機会をつくることができました。

ほか、五月三日(祝・金)〜五日(祝・日)の三日間で、「こどものとなり朗読コンサート」(右写真)など、南吉のセンス・オブ・ワンダー作品を朗読や演奏で楽しむイベントも開催しました。展示だけでなく、イベントに参加することでも、南吉の息吹を感じてもらうことができたのではないかと思います。

新美南吉記念館開館30周年記念動画を公開しました！



新

美南吉記念館は今年で開館三十周年を迎えます。これを記念して、記念館ができる前から今日までのあゆみをまとめた三十分の動画を作成しました。

動画は次の六章から成っています。

- 一章 新美南吉記念館ができる前
- 二章 新美南吉記念館オープンへ
- 三章 記念館ではこんなことをやってきました
- 四章 新美南吉記念館をささえる人たち
- 五章 こんなできごともありました
- 六章 開館三十年を迎えた記念館

南吉とその作品の顕彰は記念館ができる前から行われていました。一章では、一九六一年に新美南吉顕彰会が設立されてから、記念館の前進ともいえる「南吉資料室」が開室されたこと



▲ 記念館開館テープカット（平成6）

や、南吉の生家を市が買い取り復元公開するまでの流れを写真と「映像」で紹介しています。

この映像は、今回動画の制作を委託した地元ケーブルテレビC A Cのアーカイブを活用しました。以降の章でも、今となつては貴重な記録を多数垣間見ることができます。

たとえば二章では、オープン初日に賑わう記念館の様子や、南吉の文学仲間の清水たみ子さんが開館を祝して来館された時のインタビューを挿入しています。続く三章は記念館の事業を振り返る内容で、二〇一三

年の新美南吉生誕百年事業を大きな目玉として紹介しました。市内外から多くの人が南吉を訪ねて来た当時の熱気を感じてもらえるのではないのでしょうか。

振り返ると、記念館の活動は南吉を愛する沢山の人たちに支えられてきました。地元における南吉研究の第一人者で、「新美南吉資料室」開室に尽力した大石源三さん。南吉が安城高等女学校で受け持ち、彼の死後、顕彰活動が続けてきた教え子の皆さん。「ごんぎつね」の舞台・矢勝川に咲く三万本の彼岸花の植栽活動を始めた小栗大造さん——四章では、そうした今日の記念館を形作る大切な人たちを紹介しています。既に鬼籍に入られた方も多く、インタビュや座談会の映像に懐かしさを憶えるとともに、往時の姿が偲ばれます。

それから五章では、記念館で起きた印象的な出来事を紹介しました。一つは二



▲ 動画のスクリーンショット

〇一〇年に当時の天皇皇后両陛下が記念館をご訪問くださった行幸啓です。ほか二〇二〇年に起きた新型コロナウイルスの流行や、ウィズコロナで再発進した記念館の活動などを振り返りました。

総じて一章から五章までは記念館の「これまで」を回想しています。最後の六章も昨年の新美南吉生誕百年事業を紹介するもので、過去の話にはなりますが、展示室のリニューアルを終えて、また一歩あゆみを進めていく記念館の「これから」への想いを伝えています。

記念館のYouTubeチャンネル（上QRコード）で公開していますので、ぜひ一度ご覧ください。公開期限はありません。

ビデオシアターが新しくなりました！

三月十三日（水）、長らく「ごんぎつね」と「手袋を買いに」を隔月で放送していた展示室内のビデオシアターを改修し、公開しました。これまで自動再生だったものをボタン再生の選択式にし、番組も「ごんぎつね」（新録）、「手袋を買いに」、南吉の生涯を紹介する「ごんぎつねと南吉」の三本に増やしています。どうぞ展示と合わせてお楽しみください。



▲ 改修したシアターのボタン

記念館からのお知らせ

新美南吉生誕祭

新美南吉生誕祭 2024

7/27(土)～30(火)

※7/29(日)は休館日



7月30日は新美南吉の111回目の誕生日です。
誕生日をふくむ3日間はイベントが盛りだくさん。
みんなで南吉さんの生誕を楽しくお祝いしましょう！

7月27日(土)

- ・AMI 南吉を歌う
- ・大型紙芝居
- ・正八ちゃんの宵祭り

7月28日(日)

- ・畳を使ったコースターを作ろう
- ・読み聞かせ人形劇
- ・歌とお話の会

7月30日(火)

- ・「南吉さんの日」式典
- ・南吉の部屋で写真を撮ろう

※期間中(7/27～30)は入館無料！

第36回新美南吉童話賞 作品募集

今年も小学生から大人まで、創作童話を募集します。ふるってご応募ください！

募集期間 9月10日(火)まで

結果発表 11月下旬(予定)

賞金 最優秀賞40万円 ほか

※詳細は記念館HP(右QRコード)へ



特別展

「本に押し潰されて死ねば、
本望です～南吉と読書～」

ゲーム「文豪とアルケミスト」とのタイアップ企画。南吉本人の蔵書、読んだ作品・作者への思いが綴られた日記などを通して、読書家だった新美南吉を紹介します。

会期 令和6年7月13日(土)
～10月14日(祝・月)



©2016 EXNOA LLC

日誌抄：

二月(如月)

▼11日「ガリ版体験」。8

人参加▼18日 第35回新美

南吉童話賞表彰式。於半田

市市民交流センター▼24日

「ペーパーアート教室」。16

人参加▼25日 第195回

新美南吉読書会。21人参加

三月(弥生)

▼13日 記念館ビデオシア

PayPay
はじめました！



四月から新美南吉記念館の展示室観覧料の支払いに、PayPayを利用していただけのように感じました。PayPay払いをご希望の方は、受付にあるQRコードを読み取って決裁してください。
※例年九月下旬から十月初旬に開催している「ごん秋まつり」期間中はご利用いただけません。
現金払いのみの対応となります。



ターをリニューアル公開▼19日「見つめて描いて私のはんだ」新美昇スケッチ画原画展」始まる(3月31日)▼20～24日 新美南吉没後81年「貝殻忌」。1386人参加▼24日 第196回新美南吉読書会。23人参加

四月(卯月)

▼5日 記念館開館30周年

記念動画を公開▼7日「榊

原澄香ペーパーアート展」

終了。会期中観覧者数88

07人▼13日 企画展「君

は即ち春を吸いこんだのだ

く南吉のセンス・オブ・ワ

ンダー」始まる(6月

30日)▼同日「南吉祭」。

地元岩滑地区の山車二輛が

記念館駐車場に揃う▼26日

「ペラルーシの子どもたち

が描いた新美南吉読書感想

画展」終了。会期中観覧者

数9080人▼27日 石垣

藤九郎氏が描いた昔の岩滑

の絵の展示始まる(6月

30日)▼27日「ごんぎつ

ねのお殿様」中山家甲冑展

示」始まる(5月6日)

▼28日 第1

97回新美南

吉読書会。27

人参加

